

行政事業レビューシート (環境省)

予算事業名	衛星搭載用観測研究機器製作費	事業開始年度	平成10年度	作成責任者		
担当部局庁	地球環境局	担当課室	総務課研究調査室	室長 小野 洋		
会計区分	一般会計	上位政策	環境問題に対する調査・研究・技術開発			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	—	関係する計画、通知等	京都議定書目標達成計画			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	気候変動予測モデルの高精度化及びCO2の吸収排出量把握には、温室効果ガスの全球的挙動の把握が不可欠である。本事業では、これらの目的を達成すべく、温室効果ガス観測技術衛星いぶき(GOSAT:Greenhouse gases Observing SATellite)に搭載する高精度な温室効果ガスセンサーの検証を行うものである。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	GOSATプロジェクトは環境省、国立環境研究所、宇宙航空研究開発機構の三者共同プロジェクトである。環境省は温室効果ガスの全球的挙動を把握するためのセンサーの開発、検証を行うこととなっており、平成21年1月の打ち上げ後は受信したデータの検証を行う。					
実施状況	平成19年度にセンサーは完成し、平成20年度はセンサーを最終確認のうえ、温室効果ガス観測技術衛星いぶき(GOSAT)へのセンサー搭載を行った。同衛星は平成21年1月23日に打ち上げられた。平成21年度はセンサーより取得されたデータの検証、補正を行った。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	340	300	180	70	0
	執行額	340	300	180		
	執行率	100%	100%	100%		
	総事業費(執行ベース)	340	300	180		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	事業の実施に際し、請負先である国立環境研究所担当官と随時打ち合わせを行い、進捗や方向性について確認を行うとともに、年度毎に事業報告書を提出を受けることにより、事業成果の把握を行っている。				
	見直しの余地	3年間にわたる国庫債務負担行予算額の推移は、平成19年度までに温室効果ガス観測センサーの製作の終了、平成21年1月に最終機器確認後にGOSATに搭載し打ち上げ、平成22年度からは温室効果ガスセンサーのデータ検証を行う定時運用に移ったことによるもの。本事業をより有用にするため、観測成果の研究機関等へのインプット、利用促進を進めるとともに、引き続き広く国民に測定データや本プロジェクトの必要性等分かりやすく国民に公表をしていく必要がある。さらに、「いぶき」による観測結果を踏まえ、現在地球温暖化の国際的枠組づくりにおいて大きな課題となっている温室効果ガスのMRV(計測・報告・検証)に貢献し得るセンサー開発及び他の観測手段やモデルとの連携について検討を進めていく必要がある。なお、「(中事項)衛星搭載用観測研究機器製作費」は22年度にて終了を検討する。				
予算監視の効率化	<p>廃止</p> <p>(所期の目的が達成されたため、廃止。)</p>					
補記						

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

環境省
180百万円

平成21年度温室効果ガス観測技術衛星(GOSAT)検証業務
【内容】
気候変動予測モデルの高精度化及びCO2の吸収排出量把握には、温室効果ガスの全球的挙動の把握が不可欠である
り、これらの目的を達成すべく、GOSATに搭載された温室効果
ガス観測センサにより取得されるデータの検証を受注者に
請け負わせる。

【国庫債務負担行為・請負】

A. (独)国立環境研究所
180百万円

【業務内容】
GOSATに搭載された温室効果ガス観測センサにより取得され
るデータの検証・補正を行う。

費目・使途
(「資金の流れ」
においてブロックごとに最大の
金額が支出されている者につ
いて記載する。使途と費目
の双方で実情が分かるように
記載)

A. (独)国立環境研究所			C.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	温室効果ガス観測センサのデータ 検証	180			
計		180	計		0
B.			D.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0